



# べふっ子の共育

～学校だより・つなぐ7月号 巻頭言として～

令和6年7月1日(月)

発行: 摂津市立別府小学校  
校長 田中健一郎

## 「自分らしく私らしく生きる子」

新しい別府小学校のめざす子ども像の一つです。とても素敵な目標、素敵な言葉だなあと感じています。全てのべふっ子たちには自分らしくのびのびと生きてほしい。私らしくあることを大切にしてほしい。そう願います。この目標を実現するために、我々大人には何ができるのでしょうか。

ここ数年、週末を利用した海外旅行が好きで実行しています。文字通り週末の休み+祝日などを利用しての2泊3日とか、3泊4日ほどの短いものなのですが、行けそうだなと思った時にはエイっと飛び込むようにチャレンジしています。海外旅行と聞くとお金がかかるイメージですが、今は航空券もLCC(ローコストキャリア)を使えばとても安いものがありますし、スマホのアプリでホテルから何から希望や予算にあったものを自分で探して予約できるので、想像するよりもお金をかけずに行くことができます。非日常を楽しむ、ということももちろんあるのですが、校長、教員、父親といった社会的な役割の鎧をいったん脱いで、一人の素の自分で新しい体験や出会いにチャレンジしたいという思いで旅に出ています。誰かと一緒に行くとその人を頼ってしまうので、行くのは決まって一人で。いろいろな国籍の人たちと出会える現地の宿泊ツアーに毎回参加しています。ここでは普段日本にいる時には感じにくい、自分がマイノリティ(少数派)になる体験ができてとても新鮮です。

その海外一人旅で参加した現地ツアーでのエピソード。

ツアーガイドさんにランチ(昼食)について、「肉や魚は食べられますか？それともビーガン？」と聞かれました。ビーガンとは動物性食品を一切使用しない菜食主義のことです。これまで日本で生きてきた中で、コース料理などで「お肉にしますか？魚にしますか？」と素材の希望を聞かれたことはありますが、このように主義趣向を聞かれたことは一度もなかったの、へーそんなことまで聞かれた、と内心驚きました。私自身は食べ物の好き嫌いは少しありますが、菜食主義者ではないため、I eat meat and fish.と答えました。

次に同じように聞かれた、私の隣に座っていたチェコ共和国出身の若い女性は「私はビーガンです。ですが、場面によっては肉や魚も食べる時もあるけど、可能ならできるだけビーガンでいます。」というような内容の返事を返していました。その会話を横で聞いていて、へーこんな若い女の子なのに自分の在り方をしっかりと自分で選んで決めていてすごいなあ、かっこいいなあと感じました。私は若い時に、彼女のように自分自身の在り方を自分でわかっていたらどうか。自分という人間のことを他の人に伝えられていたらどうか。自分の生き方を自分自身で選択して決めてきたらどうか、と彼女を見て考えさせられました。彼女は、まさに「自分らしく」生きているように見えました。

「自分らしさ」とは「他者にとらわれず自分の価値観や性格を尊重している状態のこと」とあります。例えば自分の意見や考えを本音で話せたり、周りの環境に流されずにやりたいことができたり、良い・悪いに関係なく自分をありのままに受け入れている、といった状態のときが自分らしいということになるのでしょうか。

そういう意味で自分自身を振り返ってみると、もちろん思いや考えを率直に本音で話せる場面もあれば、置かれた状況によってはなかなか言えない時もあります。やりたいことも100%できているかという点も難しいし、自分を素直に受け入れられない時だってあります。小さい頃からそうであったし、この歳になっても変わらない気もします。ですが、自分らしくいたいし、自分らしくいてもよいと思える環境や雰囲気を作りたいと思いつつ、これまでずっと生きてきたように思います。

保護者の皆さんは、自分らしく毎日を、そして自分らしく人生を生きていますか？

皆さんにとっての自分らしさってどんなことでしょうか？

自分らしさが大切、と言われながらも、いつもどんなときも自分らしくいつづけるということはなかなか難しいことです。程度の違いこそあれ、そのことは大人の皆さんもこれまで生きて来られて感じられていることだと思います。

特に仕事上では、自分の思いやニーズだけを優先して物事を選んだり決めたりということができないことは、もちろんたくさんあります。私などでしたら、「校長として」「管理職として」「責任者として」などといった、周りから求められる目に見えないものにとられることも多いです。やはりそのようなときには自分らしい判断ができているかと言えば難しい。

家庭でもそうですよね。「保護者として」「父親として」「母親として」と周りから求められるものに従わないといけない時もある。自分の大切な時間の大半を社会的な役割という重たい鎧を着たまま過ごさなければならない。そんな時だって多々あると思います。

日本では周りから求められるものに重きをおく、言い方を換えれば、周りを気にして生きることが強いられる、そんな雰囲気がとても強い。よりよい成績でなければいけない、よりよい就職をしないといけない、目には見えない～あるべき～するべきが常に我々を取り囲んでいる。世間体や同調圧力といった言葉で表されるように、海外に出て日本人としての自分を客観的に見てみると、「自分がどう思うか」よりも「相手にどう思われるか」を気にしている場面がとても多いことを感じます。

学校でもそうですよね。我々教員も子どもたちをそのように育ててしまっています。目を輝かせて自分の好きなことや思ったことを体いっぱい表現していた1年生の子どもたちが、学年が上がるにつれて徐々に自分のことを語らなくなる。人と違うことを気にするようになってしまう。大人や他人にジャッジを求めるようになってしまう。もちろん学習指導要領で履修すべきことが決められていますから、決められた時間の中で教えないといけない、理解させないといけないということも大きいジレンマとなっています。

そんなこの日本で、自分らしく生きる子に育てるために、我々大人ができることは？

それは、子どもたちに、あなたはどうなりたいのか？どうなったらマルなのか？を考えさせることでしょうか。「あなたはこうすべきである。こうなさい。」と大人が価値観や行動を制限したり押しつけて終わるのではなく、「私はこのように思うけど、あなたはどうなりたいの？どうなったらマルなの？」と選択と決定を何度も何度も自分の頭で考えさせること。子どもは大人がコントロールすべきものではない、支配するものではないということをしかりと認識して、大人と子どもとの間にしっかりと境界線をもつこと。大人が過干渉にならないことが必要であり大切かと考えます。

また、子どもたちに考えさせるということは大切ではありますが、なかなか難しいこと。特に「あなたはどうしたい？どうなりたい？」と聞くと、ややもすれば自己中心的な「わがまま」を言うかもしれません。自分のことを大切にすることで周りにもポジティブな影響を与える「自分らしさ」と、自分のことだけを優先したり周りの人を困らせる「わがまま」との違いはしっかり見きわめる必要があります。

「自分らしさ」と「わがまま」は一見似ているようですが、自分や周りの人を幸せにするかどうかという点で大きく違います。「自分らしさ」とは自分の生き方を自分で決めること、「わがまま」とは他人の生き方に口出ししたり制限や強制したりすること。こう書くと、意外と大人が子どもの生き方に対して口出しや強制をしていることは多いですよ。私自身もそうして育ってきたこともありますし、わが子にも口出ししてしまった経験もたくさんあります。

子どもたちを「自分らしく私らしく生きる子」にするためには、まずは我々大人が自分らしく生きる、私らしくいるために自己理解を深めるということが大切だと思います。もっともっと大人も自分らしくあっていいんですよ。好きなことやチャレンジしたいことを自分で決めていいんですよ。大人がワクワクしたことにチャレンジして自分らしい姿を見せることが、子どもたちにとっての一番のお手本になるんだと思います。べふっ子サポーターの大人の皆さま、もっともっと自分らしく楽しく自分の人生を生きましょう！好きなことや居心地のよいことをたくさん持ちましょう！大人がまずは自分自身をしかり幸せにしてあげましょう！

この夏の旅の計画を思案中。

旅ってあれこれと計画している時が一番楽しいですよ。

